

# 生体内での顎関節症滑膜炎誘導機構の解明

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00058841">https://doi.org/10.24517/00058841</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



[◀ Back to previous page](#)

## 生体内での顎関節症滑膜炎誘導機構の解明

Research Project

Project/Area Number	20K18690
Research Category	Grant-in-Aid for Early-Career Scientists
Allocation Type	Multi-year Fund
Review Section	Basic Section 57060:Surgical dentistry-related
Research Institution	Kanazawa University
Principal Investigator	小林 一彦 金沢大学, 附属病院, 医員 (60802832)
Project Period (FY)	2020-04-01 - 2021-03-31
Project Status	Discontinued (Fiscal Year 2020)
Budget Amount *help	<b>¥4,160,000 (Direct Cost: ¥3,200,000, Indirect Cost: ¥960,000)</b> Fiscal Year 2021: ¥2,080,000 (Direct Cost: ¥1,600,000, Indirect Cost: ¥480,000) Fiscal Year 2020: ¥2,080,000 (Direct Cost: ¥1,600,000, Indirect Cost: ¥480,000)
Keywords	エラスチン / 顎関節
Outline of Research at the Start	これまで申請者は、in vitroでエラスチン分解産物が培養顎関節滑膜細胞でIL-6を発現誘導することを報告した。しかしながら、in vivoでエラスチン断片がIL-6産生を誘導し、滑膜炎を誘導し最終的に顎関節症の発症に関与しているかについては不明であり、本研究で明らかにしようとする。
Outline of Annual Research Achievements	in vivoでのエラスチン断片による顎関節でのIL-6の産生誘導と顎関節OA様変化の観察:日本白色家兎の顎関節腔にエラスチン断片を注入して滑液を回収する。滑液中のIL-6濃度をELISA法にて測定し、エラスチン断片による顎関節でのIL-6の産生誘導を確認する。さらに、顎関節のパラフィン切片を作製し、IL-6の発現と局在を免疫組織学的に検討する。 症自然発症マウスを用いた顎関節症の検証:関節症自然発症マウスのStr/Ortマウスの顎関節部をマイクロCTを用いて観察し、骨のOA様病変を観察する。さらに顎関節滑液を関節腔洗浄により採取し、ELISA法にてエラスチン断片およびIL-6濃度を測定する。また、顎関節のパラフィン切片を作製し、エラスチンの断裂の程度やIL-6の局在を免疫組織学的に観察する。、靭帯組織でIL-6を発現する遺伝子改変マウスでの顎関節病変の観察:エラスチンは顎関節の腱や靭帯組織に多く発現している。靭帯特異的に発現するデノモジュリン遺伝子のプロモーターと、腱特異的に発現するスクレラキス遺伝子のプロモーターを用いて、靭帯または腱特異的にIL-6を発現する遺伝子改変マウスを作製する。この遺伝子改変マウスの顎関節をマイクロCTにて解析し、顎関節のOA様変化を解析する。さらに、顎関節のパラフィン切片を作製し、骨や軟骨の破壊および滑膜炎の程度を観察し顎関節症が誘導されているかを観察する。

## Report (1 results)

2020 Annual Research Report

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-20K18690/>

Published: 2020-04-28 Modified: 2021-12-27